

丹波市におけるナガレホトケドジョウの生息分布

丹波地域のホトケドジョウを守る会

はじめに

兵庫県内で丹波市にのみ生息しているホトケドジョウ *Lefua echigonia* を保全するボランティア活動団体「丹波地域のホトケドジョウを守る会」は、2020年からホトケドジョウだけでなく近縁種のナガレホトケドジョウ *Lefua torrentis* の分布調査も進めている。本発表では、分布調査を続けて、現時点でわかってきたことを調査の途中であるが報告する。

ナガレホトケドジョウについて

ナガレホトケドジョウはホトケドジョウと比べて、目が小さく上についている、体や鱗に斑紋が無い（あっても少ない）ことから区別できる（Hosoya et al., 2018）。また、ドジョウ *Misgurnus anguillicaudatus* とは髭の本数の違いや顔が丸いことから区別できる。本種は世界でも瀬戸内海周辺から日本海にかけての河川にのみ分布している日本固有種であり、環境省レッドリスト2020では絶滅危惧IB類に指定されている。生態的に特異な点としては、他の魚類が生息していないような山の源流域にも生息していることがあげられる（中島・内山, 2017）。さらに、小型の魚類にしては寿命が長く、17年生きた個体が報告されている（Aoyama, 2025）。



図1. ナガレホトケドジョウ

調査方法

兵庫県丹波市を流れる由良川水系の21地点と加古川水系の26地点の計47地点でナガレホトケドジョウの採集および目視調査を実施した。調査地点はいずれも山に流れる細流であり、河川形態はAa型であった。捕獲には、たも網と観賞魚用ネットを用いた。



図2. 調査の様子

結果

調査地点47地点のうち、28地点でナガレホトケドジョウの生息が確認された。生息が確認された地点の水系に注目すると、由良川水系19地点、加古川水系9地点で確認されており、分布に偏りが見られた。

考察

兵庫県丹波地域は、瀬戸内海に注ぐ加古川と日本海に注ぐ由良川の上流域であり、過去に河川争奪が生じてきた(開田, 1997)。そのため、丹波市内において本種の生息分布は、水系に関係なく一様であると推測されたが、調べてみると結果は偏った分布をしていた。加古川水系において生息が確認されなかった河川はある程度集中しているため、過去に何かしらの地形変動が起きた可能性や天敵となる生物が侵入している可能性が考えられる。今後は、調査範囲を広げるとともに丹波地域の地史的な背景についても調べていきたい。

引用文献

- Aoyama S. (2024) Age and growth of long-lived individuals of the fluvial eight barbel loach, *Lefua torrentis*, in the upper stream of the Kako River system, Hyogo Prefecture, Japan. *Ichthyological Research*, 72: 408-416.
- Hosoya K., T. Ito and J. Miyazaki (2018) *Lefua torrentis*, a new species of loach from western Japan (Teleostei: Nemacheilidae). *Ichthyological Exploration of Freshwaters*, 28: 193-201.
- 開田 齊 (1997) 雑学丹波「氷上回廊」. 青垣町. pp.11-25.
- 中島淳・内山りゅう (2017) ナガレホトケドジョウ. 「日本のドジョウ 形態・生態・文化と図鑑」, pp. 194-197, 山と溪谷社, 東京.